



の ぞ み 希 望



新たな発想から生まれたこと

校長 若色 昌孝

様々なお力添えをいただきまして、10月23日、晴天の下、杉田スポーツフェスティバル（以下：運動会）を無事に開催することができました。ありがとうございました。

コロナ禍での2年目の運動会となりました。この状況下で、例年通りにいかないことがいくつもありました。それは、一見残念なことでありますが、よく考えたら、そうではないということも見えてきました。コロナに対応するために、知恵を絞り、アイデアを出し合い、いわゆる「今まで」にこだわらない発想から新たに生まれたこともありました。

運動会後に届いたアンケートで一番多かったのは、学年色のリボンミニプログラムに関してです。「学年色のリボンプログラムによって、保護者が参観場所の最前列を次の学年の方に自然に譲って、見やすかった。」という声が多く寄せられました。中には、10年間以上、本校にお子様がいる保護者から、今回の保護者の譲り合いはとてもよかったという内容のお声も届きました。このアイデアはPTA役員さんの発案です。お互いに譲り合い、少しでも密にならないように、トラブルやストレスを少なくして参観しやすいように…という視点から生まれたものです。

今年度、会場図も大きく変えました。感染防止の観点から、児童エリアと保護者エリアを完全に分けたことで、動線がシンプルになり、入場、参観、退場が一方通行になりました。また、徒競走やリレーのゴールは本部側…というのが運動会の慣例でしたが、今年度は発想を変えて、保護者エリアに近い方をゴールにしました。このことも好評でした。

さらに、コロナ対応ということで午前中に3学年ずつの2グループ開催としましたが、「今後もこの形で。」「短時間で集中して競技ができた。参観もしやすかった。」というお声が、昨年度に続き今年度も大多数でした。

もちろん、先の、譲り合いに関しても「まだまだである」というご意見や、午前中開催より一日開催をというご意見もありました。限られた時間の制約や教育課程上の問題等で、ご希望に添えなかった点もありました。また、一家族2名までという判断をしましたが、「密」の場面もあったというお声もいただき、今後の検討課題としてまいります。

お天気にも応援され、子どもたちの笑顔あふれる運動会になりました。運動会後にPTAからいただいた記念タオルのデザインが、なんだか飛び跳ねるような子どもの気持ちと重なり、一層うれしい気持ちになりました。

